

①会社概要編

「鉄」を起点とする商品・サービスを通じて、産業・社会の発展に貢献

会社の沿革

2002年9月に川崎製鉄とNKK(日本鋼管)が経営統合して発足

数字は全て25年3月期

会社の概要



J F Eホールディングス

35%

持分法適用会社

2024年度 売上収益※ 4兆8,596億円

※ 調整額▽5,139億円を含む



ジャパンマリンユナイテッド

(造船事業)

J F Eスチール
(鉄鋼事業)

売上収益

3兆3,651億円



J F Eエンジニアリング
(エンジニアリング事業)

売上収益

5,698億円



J F E商事
(商社事業)

売上収益

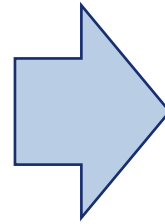
1兆4,385億円



＜鉄鋼事業・商社事業＞

鉄の特長

- ・低コストで大量生産可能
- ・アルミや炭素繊維に比べ製造時の環境負荷が少ない
- ・何度でもリサイクル可能



暮らしと社会を支える基盤

鉄鋼事業・商社事業が一体となり提供

＜エンジニアリング事業＞

インフラ設備の建設・運営サービスを提供

CO2削減への貢献とサーキュラーエコノミーの実現



再生可能
エネルギー

廃棄物処理
プラント



橋梁・
鋼構造物



リサイクル
プラント

食品廃棄物発電
プラント



港湾・物流・
貯蔵設備



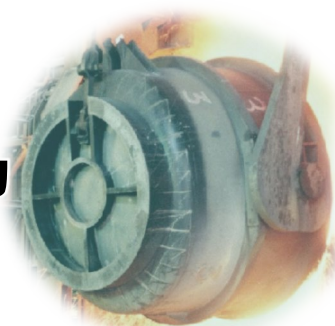
JFEスチール

あらゆる鉄鋼製品を製造販売する

総合鉄鋼メーカー

(2024年粗鋼生産量
国内2位、世界14位)

- 世界トップクラスの技術力
- 高付加価値商品に強み



鋼材
供給

JFEエンジニアリング

社会生活に不可欠なインフラ設備の建設や
サービス提供を担う

- Waste to Resource 分野
 - リサイクルプラント、発電プラント等
- CN分野
 - エネルギー、電力ビジネス、洋上風力等
- 基幹インフラ分野



SCMサポート



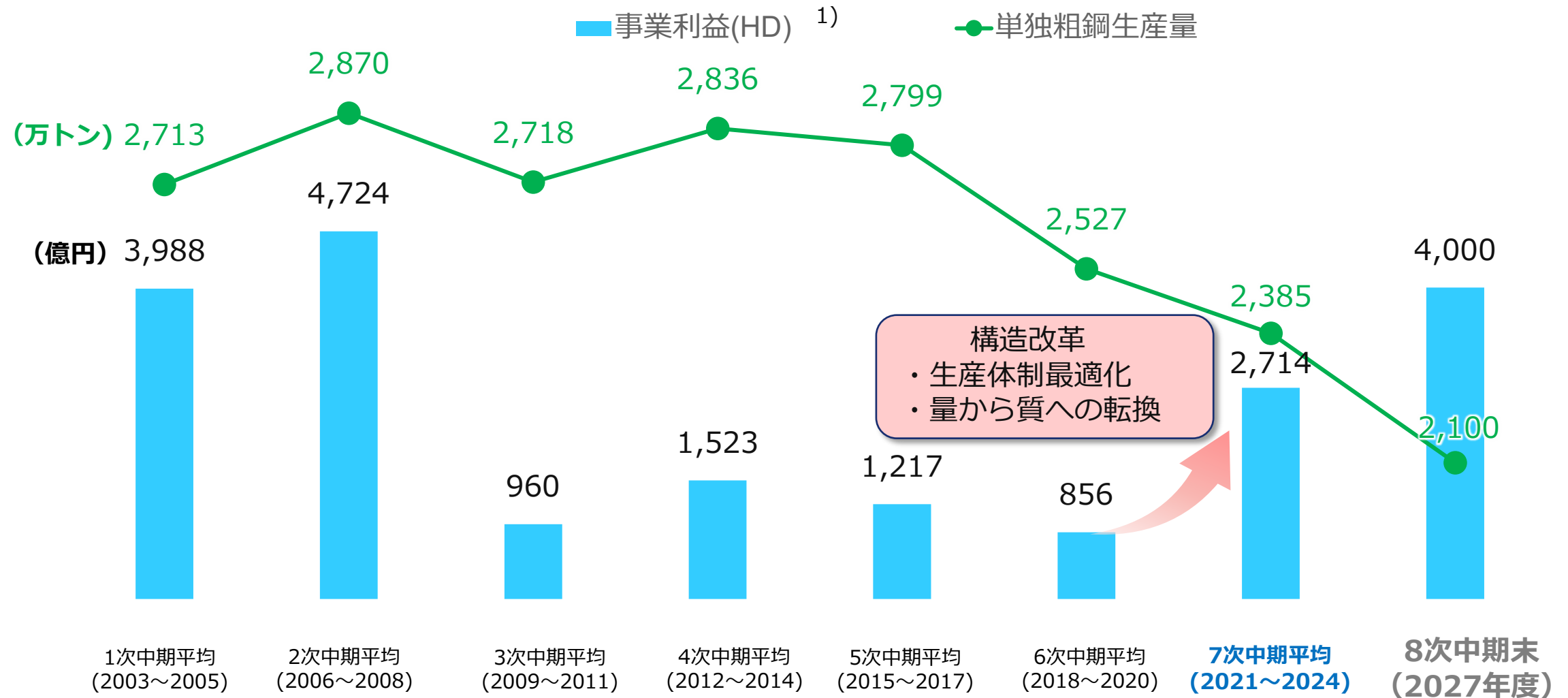
SCMサポート、鋼材供給

JFE商事

- グループ中核商社として、JFEスチール、JFEエンジニアリングと密に連携
- 国内、海外においてトレーディング事業×鋼材加工販売事業で収益拡大



- 極めて厳しい事業環境下においても利益を創出できる体制を構築



1) 5次中期以前は日本基準の経常利益

「JFEビジョン2035」

CNに向けた技術開発のトップランナー
グループ事業利益増大（セグメント利益 7,000 億円）

社会課題

気候変動問題



鉄鋼事業

- CNに向けた超革新技術の開発

グループ全体

- CO₂排出量削減を事業機会とみなした成長戦略の推進

環境的
持続性

国内市場

人口減少による鋼材需要減少

輸出市場

汎用品の価格競争激化
鋼材地産地消の潮流

鉄鋼事業

商社

- スリムで強靱な国内生産体制の再構築
- 高付加価値品比率向上
- 海外成長分野・地域でのインサイダー型事業拡大

エンジニアリング

- WtRを中心とした運営型事業拡大、海外展開
- CNビジネスの拡大

経済的
持続性

- 政府支援を受け、着実に推進中 ～ 千葉地区にて実証実験開始

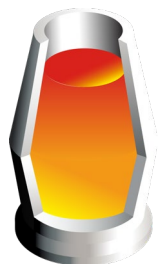


高効率・ 大型電気炉

＜超革新技术＞
大規模・高効率・高品質鋼製造技術

実証試験炉

2024年下期稼働、2025年までに試験完了予定



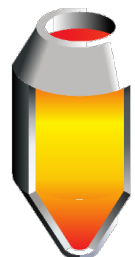
カーボン リサイクル高炉

＜超革新技术＞
高炉排出CO₂からメタンを製造
メタンをコークスの代替として使用

当社独自技術

実証試験炉

2025年4月稼働、2026年までに試験完了予定



直接還元製鉄 (水素製鉄)

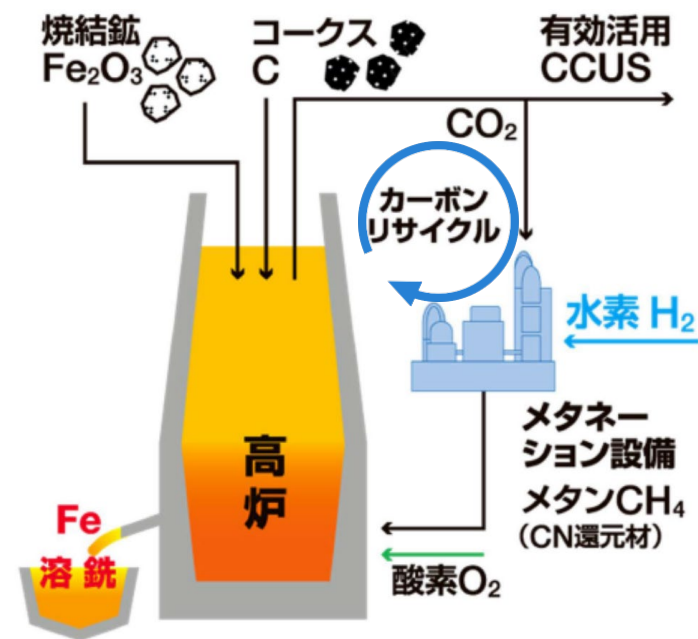
＜超革新技术＞
天然ガスの代替として水素を使用

実証試験炉

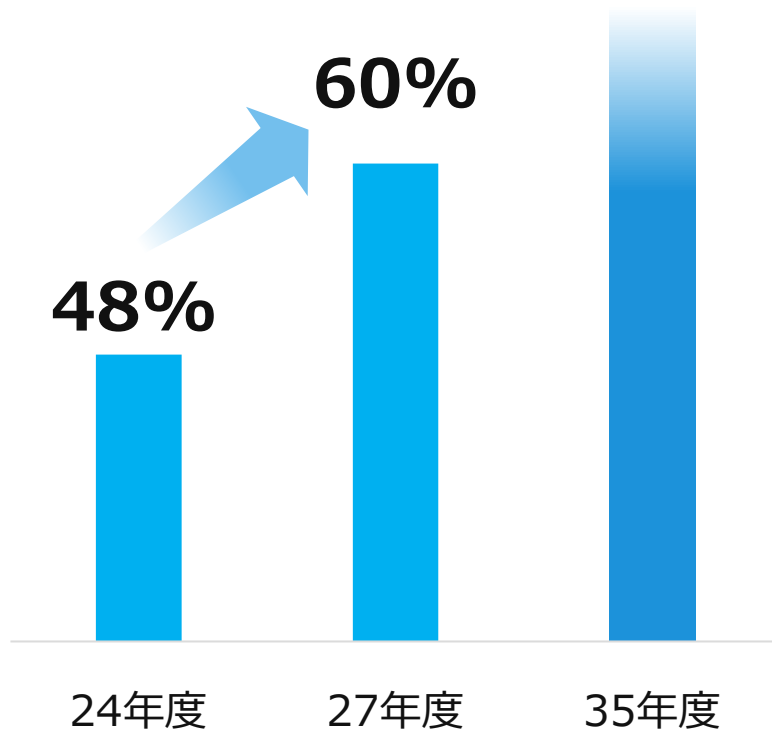
2024年下期稼働、2026年までに試験完了予定

改修時期を迎える倉敷地区の高炉1基を休止、電気炉導入を決定（2028年度生産開始予定）

カーボンリサイクル高炉



高付加価値品比率



(*)高付加価値品：

技術優位性を有し、お客様から付加価値を認められ、汎用品を上回る収益力を持つ商品（当社定義）

国内の大規模成長投資

2021年6月 530億円

倉敷新連続鋳造機建設→大単重厚板製造可能化

2024年9月 490億円

倉敷高級電磁NO製造能力 増強1期（従来比2倍）

2026年度 予定 460億円

倉敷高級電磁NO製造能力 増強2期（従来比3倍）

2028年度1Q 予定 3,294億円

倉敷革新電気炉建設

2028年10月 予定 700億円

福山超ハイテン製造CGL建設



▲大単重厚板
（洋上風力）



▲モーターコア用
電磁鋼板



▲自動車用
ハイテン

インド(2011年～)

JSWスチールと戦略的提携
(世界鉄鋼業界 時価総額1位、JFEが15%株式保有)

- ・ **J2ES : 印国内初の方向性電磁鋼板(23年度)**
一貫製造・販売会社の共同運営
- ・ **J2ES Nashik : IltkESIの共同買収(24年度)**

北米(2019年～)

NucorとのCSI社における協業(米国)
Nucorと自動車鋼板用工場新設(メキシコ)
(世界鉄鋼業界 時価総額2位)

UAE(2018年～)

大径溶接鋼管合併

中国(2018年～)

自動車鋼板用工場増強

タイ(2012年～)

自動車鋼板用工場新設
(業界初)

ベトナム(2015年～)

高炉一貫製鉄所PJ参画

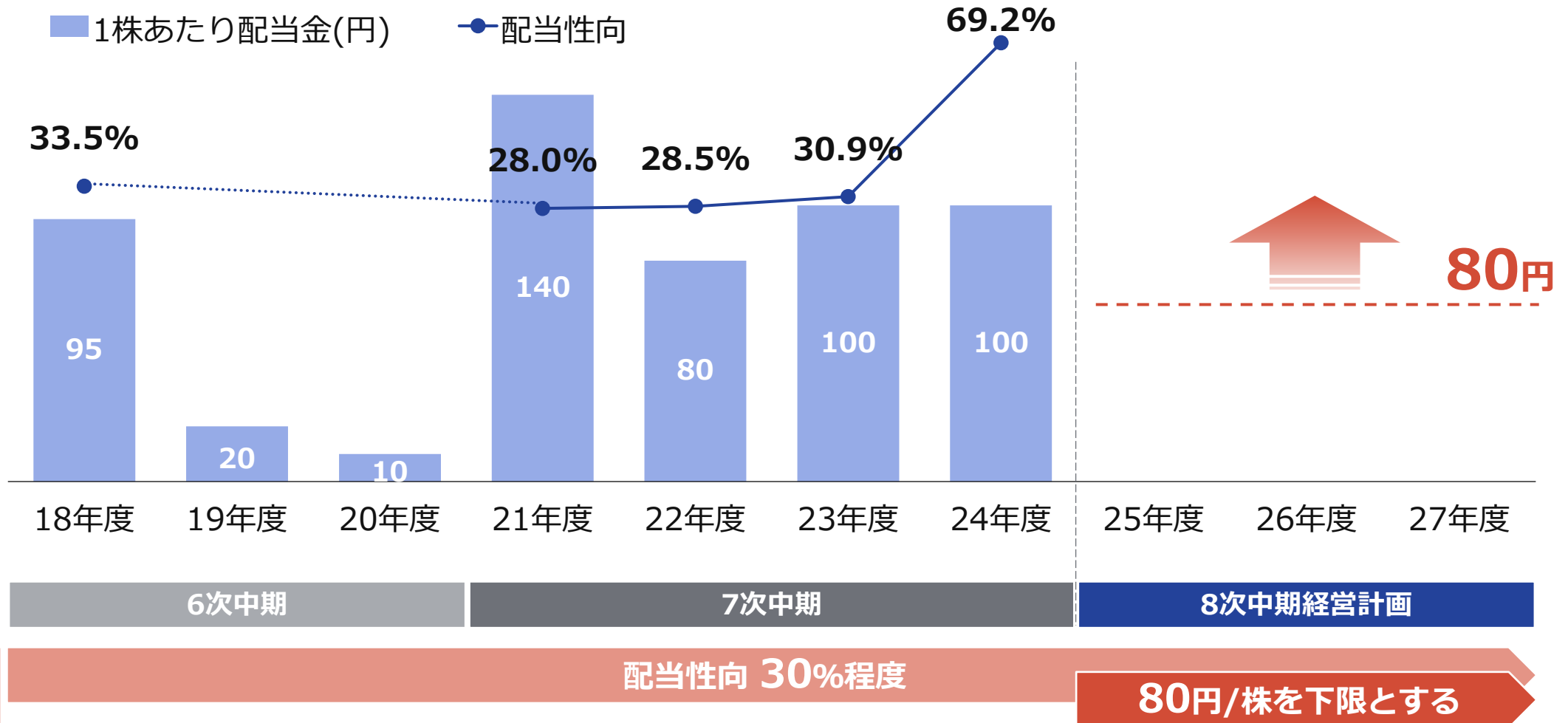
インドネシア(2012年～)

自動車鋼板用工場新設

- 「気候変動問題への取り組み」を中心に、「循環経済への移行」、「生物多様性の保全・自然再興」にも積極的に取り組み、JFEグループ全体で地球環境・社会に大きく貢献。

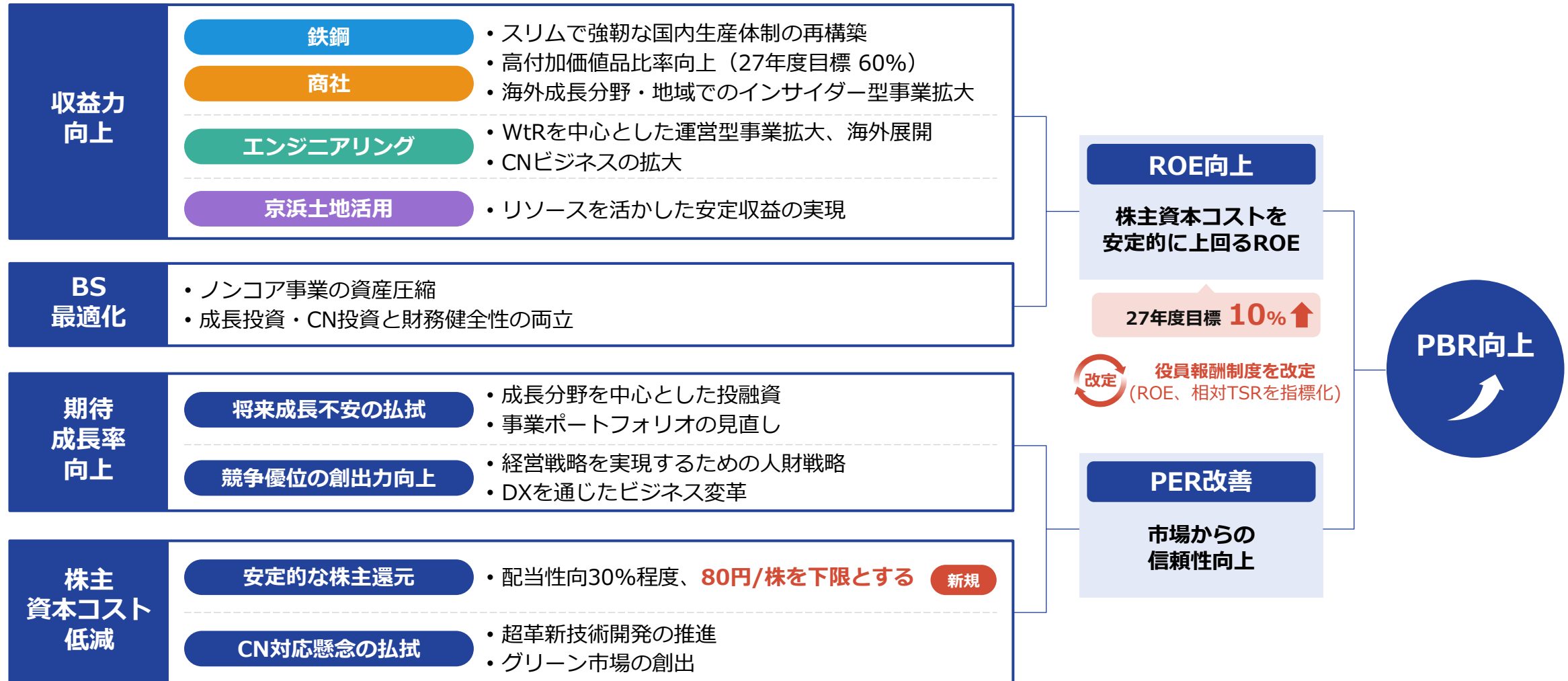


- **配当性向30%程度**に加え、安定配当を実施する観点から、**80円/株を下限**として設定



企業価値向上に向けた取り組み

- 企業価値の持続的な向上に向けて、**資本コストや株価を意識した経営**を推進。





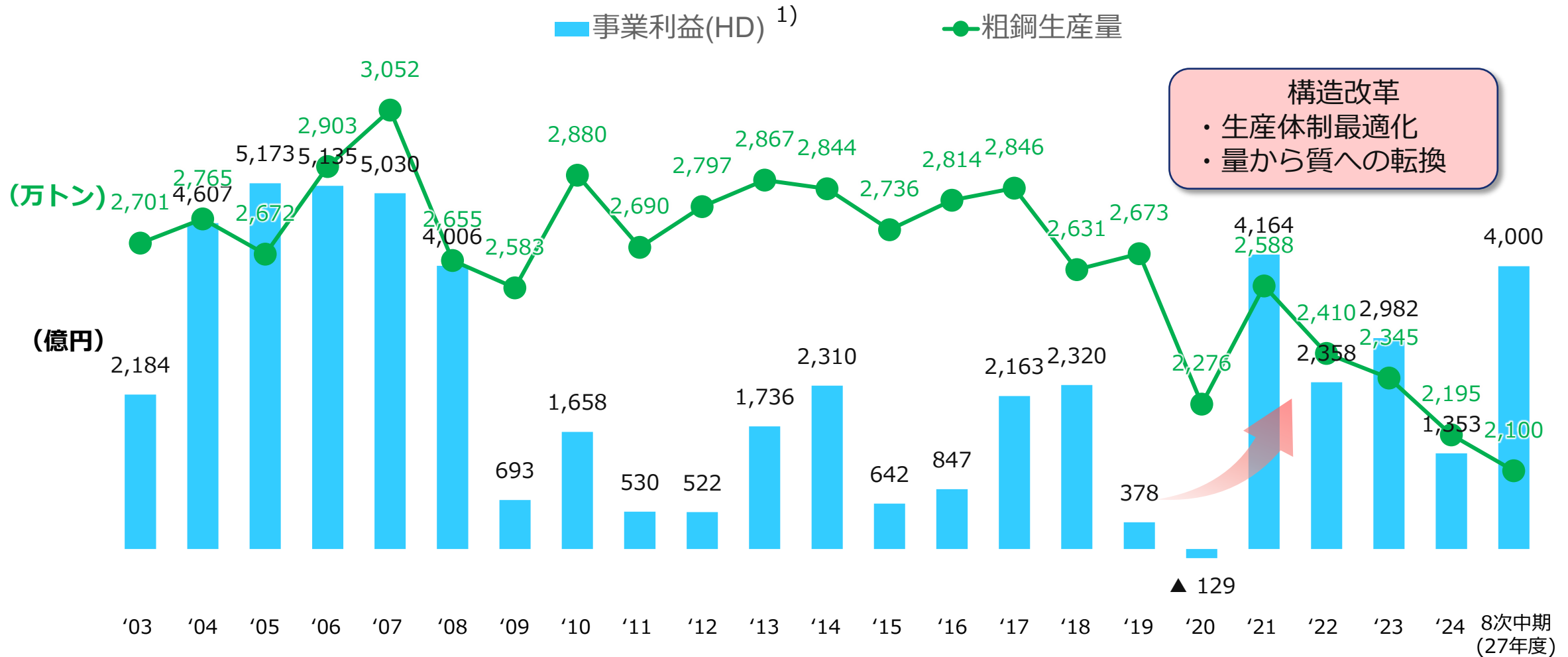
JFE

事業利益と粗鋼生産量の推移

・ JFE発足以降ver
(年毎の推移)



- 極めて厳しい事業環境下においても利益を創出できる体制を構築



1) 5次中期以前は日本基準の経常利益

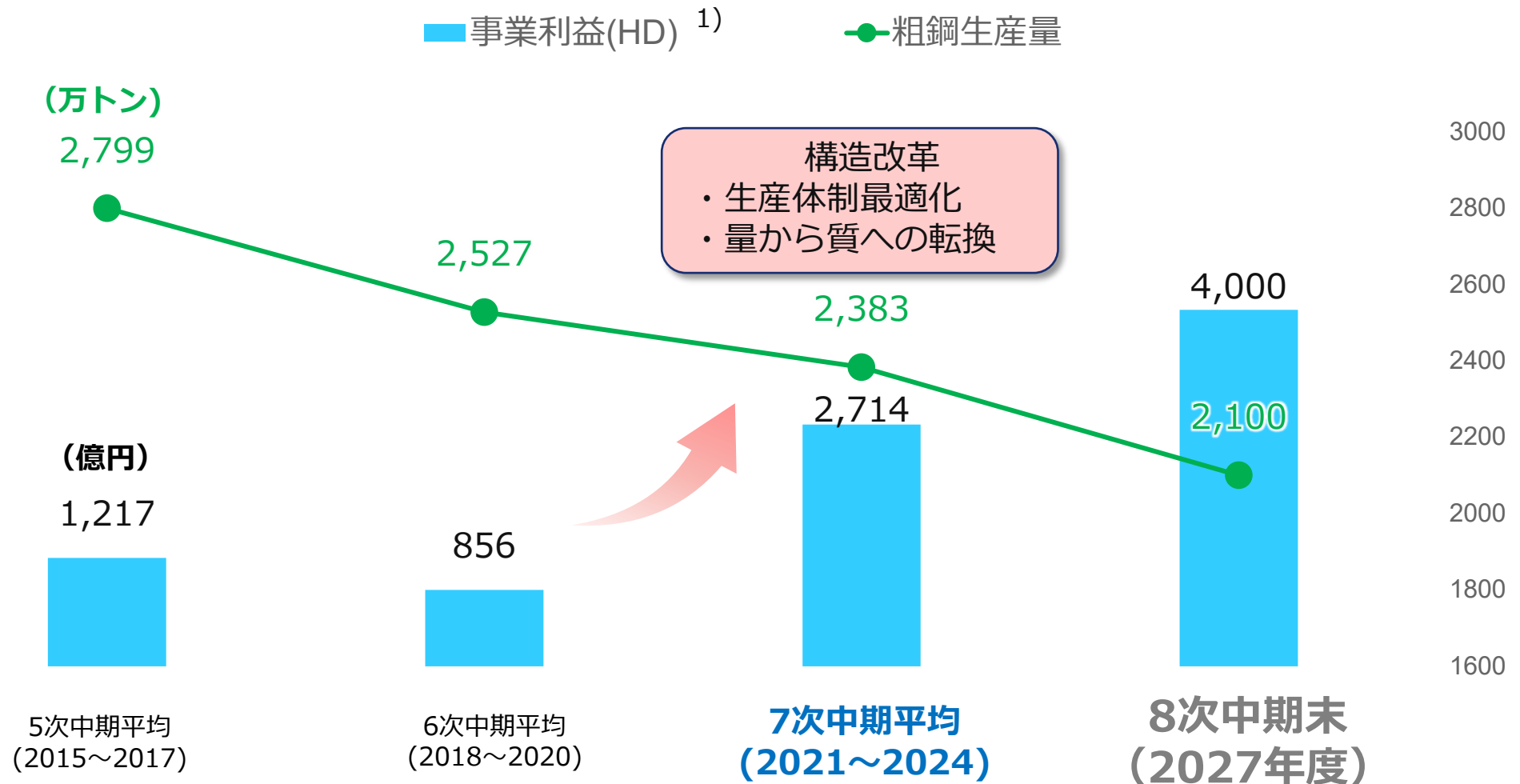
事業利益と粗鋼生産量の推移

変更点

- ・「量から質への転換」を追加
- ・生産量の縦軸を変更（より減産を強調）
- ・回答に合わせて他verも作成（次頁以降）



- 極めて厳しい事業環境下においても利益を創出できる体制を構築



1) 5次中期は日本基準の経常利益

パーパス

ねがう未来に、鉄で応える。

長期ビジョン

- カーボンニュートラル分野における鉄鋼業界でのトップランナーの地位を確立し、最先端の技術開発により気候変動問題解決へ大きく貢献する
- 新たな成長を実現し、35年度セグメント利益 5,000億円を目指す

重点施策

カーボンニュートラル

- ①2035年を目途にプロセス転換のための超革新技術開発の完了を目指す。
- ②2030年度GHG削減目標
▽30%以上（2013年度比）
- ③2030年度グリーン鋼材供給可能量を
300万トン/年に拡大
- ④高付加価値なエコプロダクト製品を供給
- ⑤グリーン技術の海外事業展開やソリューションビジネスでの活用

国内の稼ぐ力向上、海外成長戦略

- ①国内製鉄事業の稼ぐ力向上
 - ・高付加価値品比率向上
 - ・スリムで強靱な最低生産体制の構築
 - ・グループ会社の再編、協業検討
- ②原料権益の拡大も含む海外成長投資
- ③競争優位性のある技術を武器とした、ソリューションビジネスや新規事業への挑戦

パーパス

くらしの礎を 創る・担う・つなぐ

———— Just For the Earth ————

長期ビジョン

- サーキュラーエコノミー、CO₂削減分野で社会に貢献
- 2035年度 セグメント利益1,000億円を目指す
- さらに2050年度 グローバルトッププレイヤーへと飛躍

重点施策

- ① 強靱な収益体質構築
- ② 運営型事業への継続的投資
- ③ 海外事業の安定的拡大
- ④ ポートフォリオシフト・M&A/業界再編

取り組み分野別

Waste to Resource

廃棄物のリサイクルと
徹底的な有効活用

- ・EPCからO&Mまでの一環した
ビジネスモデルの展開加速
- ・Waste to Chemicalの
早期実用化

Carbon Neutral

社会実装を実現する
リーディングカンパニー

- ・洋上風力基礎製造などによる再エネ事業拡大支援
- ・水素、CO₂回収、CCS、
アンモニア等CNプラント
分野展開

Infrastructure

社会の持続的発展を
支えるインフラ整備

- ・橋梁、鋼構造物の
強靱化や長寿命化
- ・社会ニーズに応える
技術と商品開発、提供

パーパス

世界をつなぐ。鉄でつなぐ。

長期ビジョン

- JFEグループのブランド力と海外ネットワークを生かして、伸びゆく海外を成長の柱に据え、環境変化時においても安定的に収益を確保し続けるしなやかで強い会社をつくり社会に貢献
- 2035年度にセグメント利益1000億円を目指す

重点施策

国内事業

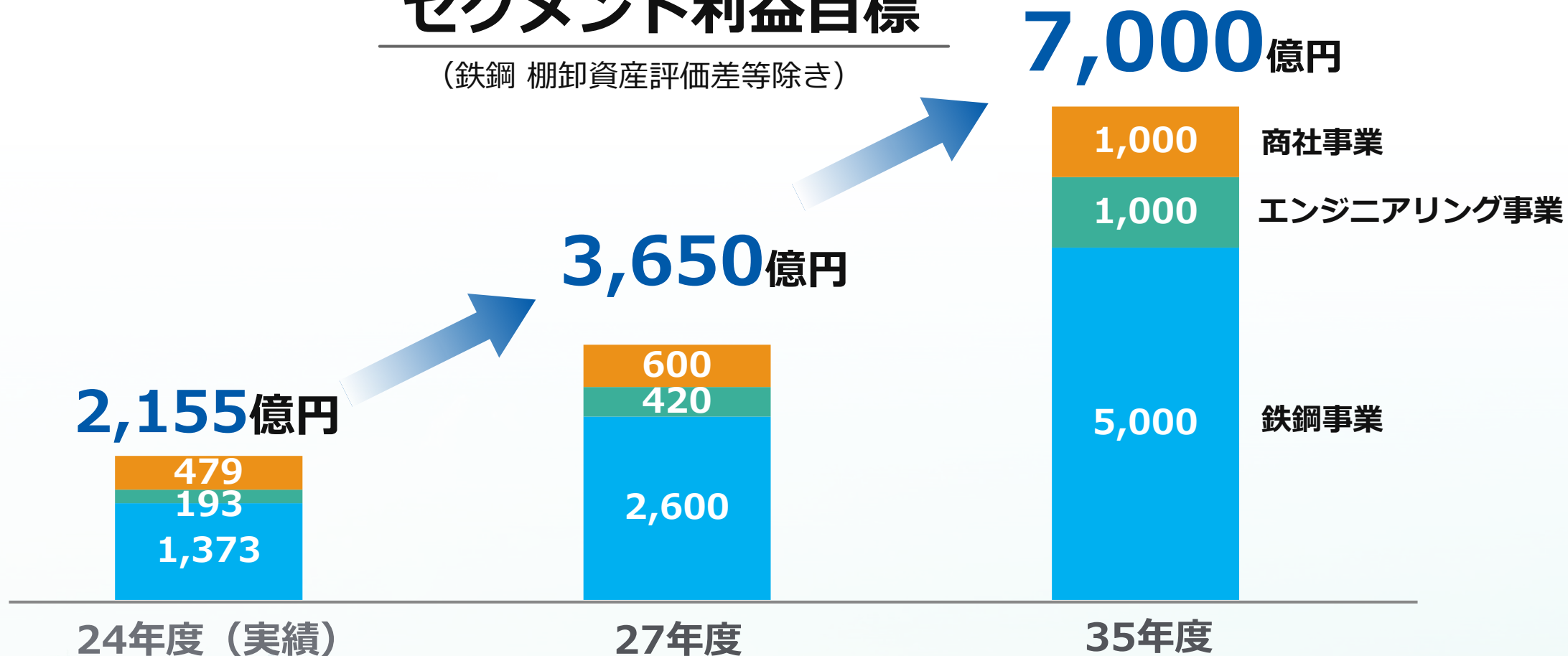
縮小する環境においても、JFE商事の根幹事業として取り扱い数量にこだわり、お客様のニーズを捉え、市場規模に合わせた効率的なサプライチェーンを提供することで存在感を高める。

海外事業

収益拡大の柱として、事業優位性の高い地域（米州、豪州、インド）を常に意識しながら、インサイダー化を推進し、グローバルサプライチェーンを構築することにより、飛躍的成長を実現する。

セグメント利益目標

(鉄鋼 棚卸資産評価差等除き)



**超革新技术の実装に必要な
設備投資額（推定4兆円）を見据えた利益目標**

- JFEグループの目指す姿を示すため、JFEグループ長期ビジョン「**JFEビジョン2035**」を策定。
- 目指す姿に向けた成長戦略推進のため、**第8次中期経営計画（2025-2027年度）**を策定。

第7次中期経営計画

- **量から質への転換**
 - ・ 構造改革完遂
 - ・ 高付加価値品比率の向上（50%）
 - ・ 販売価格体系の見直し
- **成長分野への投資促進**
 - ・ 電磁鋼板製造・加工・流通
 - ・ リサイクル事業
 - ・ 洋上風力発電ビジネスへの参入

- **環境経営ビジョン
2050の策定**

第8次中期経営計画

- **国内生産体制の再構築**
 - ・ 高付加価値品比率の向上（60%）
 - ・ 国内生産体制・事業の再編
- **海外事業拡大**
 - ・ 成長地域トップクラスのパートナーとのインサイダー型事業拡大
- **グリーン鋼材の開発と普及**
 - ・ 超革新技術の開発（GI基金）
 - ・ 革新電気炉^(*)の建設
 - ・ グリーン鋼材の拡販

「JFEビジョン2035」

- **グループ事業利益増大
（セグメント利益 7,000 億円）**
 - ・ 成長戦略に基づいた**スリムで強靱な国内体制**
 - 競争優位性の源泉である技術・人材を創出
 - 量から質への転換の深化、各事業の再編と統合
 - ・ **海外成長地域でインサイダー型事業拡大**による成長
 - トップクラスのパートナーとの協業、M&A
- **CNに向けた技術開発のトップランナー**
 - ・ **超革新プロセス転換技術の開発完了**
 - ・ 地球環境保全に貢献する高い技術力と多様なエコプロダクト群の提供
 - ・ 高品質な**グリーン鋼材市場におけるメインプレーヤー**

経済的
持続性

環境的
社会的
持続性

(*) 高品質・高機能鋼材が製造可能な高効率・大型の革新電気炉